



北海道造形教育連盟報

No. 155 2023. 3. 1発行

発行 北海道造形教育連盟

会長 東 尚典 (札幌市立旭小学校長)

事務局長 堀口 基一 (札幌市立新光小学校長)

事務局 札幌市立新光小学校

〒001-0901

札幌市北区新琴似1条12丁目1-1

TEL(011)762-7990・FAX(011)762-2619

HP <http://hokuzou.kir.jp>



今できるつながりを最大限に ～つくるとき・つながるとき～

第71回全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会

大会実行委員長 **黒田 正 則**
(帯広市立帯広第八中学校長)

このたびの「第71回全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会」を無事に終えてあらためて全道の仲間がつながれたことに喜びを感じているところです。

「つくるとき・つながるとき～豊かな心をはぐくむ造形教育」を大会テーマにして開催しましたが、これからの造形教育を考え、新しいスタイルの授業や指導方法について全道各地からオンラインでご参加いただき、誠にありがとうございました。そして、昨年度行われた「全国造形教育研究大会」「全道造形教育研究大会札幌大会」を参考にさせていただきながら、地区の開催が「どこまで 何を どのように」を見極め、可能性を探りながらの開催でした。この大会のためにご尽力してくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。

さて、未だに終息が見えない新型コロナウイルス感染症は、普段の生活や教育の現場にも甚大な影響を及ぼしています。まさしく予測困難な時代をどのように生きていくかを問われているのが現状です。少しずつですが、授業における様々な制約が段階的に改善されてはいるもののICT活用やGIGAスクール構想による一人一台の端末の導入で、既存の授業形態のみならず展開方法や思考なども大きな変容が求められています。

全道各地で造形教育に関わる方々が、この教科の特性を活かした創造性あふれる学びについて、「先を見据えた図工・美術とどのように向き合えるか」「生き方と造形教育をどのように結び付けるか」など、この大会で仲間とつながり合えることを最大のテーマとして臨みました。この広大で豊かな十勝帯広で20名程度の大会実行委員で限りある期間と時間、そして場所で準備を進めて参りました。そこには、大会の意義やこれからの造形教育の展望を含め多くの仲間や関係機関があったからこそ成し遂げられたことと考えています。

研究主題にもある「観る・感じる・創る・伝える・つながる」をキーワードにして先見的な取組を提案することができたと思います。が、何よりも日頃の実践の積み重ねがとても大切なことであること

にも気付くことができました。また、どんなにデジタル技術が進歩しても、人間ならではの持ち味は「感性」や「創造性」を生かして未来を切り拓いていこうとする大切さでありそのような力を育成することが重要だと痛感しています。

「感性」や「創造性」は自分なりに試行錯誤したり、多様な人々と協働したりして、新たな価値を体験から身に付けると言えます。造形教育では、子どもたちの経験や思考を通じて、将来を生き抜いていくために必要な力を育てていると理解できます。変化の激しい社会を生きていくのは、大人でも同じです。これまで通りの思考や行動が通用するとは限りません。

子どもに変化があるように、我々も常に変化していこうとする姿勢が必要です。時代の変化に柔軟に対応して、これからも不断に授業改善を図り、この教科におけるバージョンアップする挑戦を続けていきたいと思っています。

今後も更なる造形教育に関わる仲間のネットワークが密に重なり合うような取組を期待しておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



開会式



パネルディスカッション

第71回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会

大会テーマ

つくるとき・つながるとき～豊かな心をはぐくむ造形教育

研究主題

観る・感じる・創る・伝える・つながる

2022年10月15日（土）オンライン開催

今回の大会では、研修講座や授業研究などを通して積み重ねてきた帯広・十勝の成果を発表しました。この発表で特に大切にしてきたことは「学びが『つながる』」ということです。複数の教師で同じ題材にそれぞれ違うアプローチで取り組んだ実践や、チームで授業に取り組んだ様子を全道の皆さんに伝えました。

オンラインでの大会実施にあたっては、帯広市教育研究所に多大なご支援をいただきました。Zoomの設定やノウハウなど、勉強不足なことがある度に、アドバイスや支援をいただき、感謝に堪えません。

この大会の準備を始めたのは2年前でした。ちょうどその頃からコロナ禍が始まり、思うように十勝との交流もできず、苦勞したこともありましたが、日頃の実践の積み重ねが何よりも大切ということメンバーで確かめ合い、大会を企画しました。Art・Baton・Character・Developmentの4つの分科会で、つくる楽しさ、つながり合う喜びを皆さんにお伝え出来たのではないかと思います。今後も帯広・十勝の交流を深め、日々の実践を大切にしていきたいと思います。

（事務局 帯広第八中学校 梅津 美香）

分科会～皆さんに伝えたい帯広・十勝の学び

Art

～美術館とのオンライン授業にチャレンジしました。

Baton

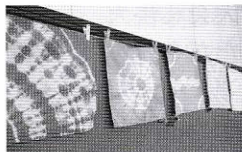
～複数校で取り組んだ染め物の実践を紹介しました。

Character

～キャラクター人形作りを通してわたしを創る実践を紹介しました。

Development

～幼児・児童のハサミの使い方の実践例を紹介しました。



パネルディスカッション～皆さんと語りたいこれからの学び



テーマ 図工・美術の現場から～造形教育で大切にしたいこと～

メインパネリスト 欽矢 悦朗 氏 建築家・東京学芸大学 教授

☆帯広・十勝（開催地）実行委員とのパネルディスカッションを開催しました。

☆豊頃町に派遣している学生ボランティアの実践、大学の授業・学生の声を紹介していただきました。

☆大会のまとめを期間限定で掲載します。ご覧ください。左記QRコードからアクセスしてください。

Art

木村 麻岐（函館市立五稜郭中学校）

リモートによって教室と美術館をつなぐだけではなく、生徒と美術をつなぐ新しい試みや工夫が随所に見られた発表でした。先生達のつながりや美術館をはじめとする地域とのつながりなど、授業に向かう熱意を感じました。アバターを用いた鑑賞から、より効果的な鑑賞授業とするため、生徒の実態に合わせて改善されたことで、生徒の学びが深まっていたと感じました。これからの美術の授業にとって、様々な可能性を感じる実践でした。



松岡 宏悦（留萌市立潮静小学校）

帯広美術館と学校をオンラインでつなぐ鑑賞プログラム、「帯広美術館オンラインアート教室」という新しい取組を知ることができ、大いなる刺激を受けました。ICTのよさを生かして「個の視点」を意識させた鑑賞の仕方を通して、中学生の子どもたちからも素直な見方を引き出すことに成功している様子が伝わってきました。近隣に美術館がない地域でもオンラインによる作品鑑賞ができるという新しい可能性を感じられる実践でした。今後、ICT、オンラインを生かした美術館鑑賞の取組が全道へ広がることを期待しています。

参加者の声



Baton

黒川 友理（札幌市立栄西小学校）

B分科会では、中学校—小学校や、同種学校間でのつながりを意識した題材開発や実践研修が行われていました。研修会で行った経験を、自分の学校・児童生徒に合わせて少しずつ実践を積み重ね、洗練された題材へと進化していました。中学校での絞り染めは、輪ゴムなどを解いて布を開いてみたときの「わぁ!」という様子が、小学校の版画題材にも通じるものがあり、子どもの思考の流れがイメージしやすかったです。このように、地域での異種校間のつながりを大切に、学びを深めていきたいと思いました。

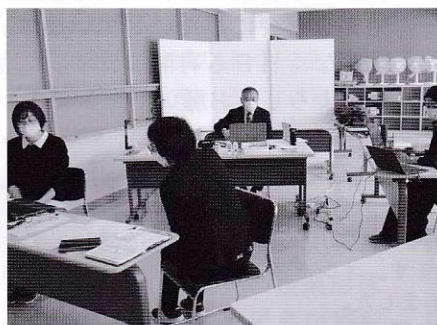
Character

藤森 佑生（札幌市立太平中学校）

私が参加させていただいたC分科会では分科会・話し合いの視点として①わたしを観る②わたしを創るという2点が設定されていました。分科会、話し合いを通じて、生徒が自己を深く見つめて感じ取ったことや心の内面などから主題を生み出し、表現方法を工夫して表すことのできる授業づくりを行うための題材の設定や教材づくりなどに関して学び、自己の考えを深めることのできるよい経験となりました。



Development



森 典子（上士幌町教育委員会）

案内HP、事前資料もわかりやすく参加を楽しみにしていました。服部先生の分科会に参加させていただきました。道具の使い方でなく、子ども達の困り感に気付くといった非常に大切なことを発信していただき、大変勉強になりました。今後も子ども達だけでなく、子どもと関わる大人に対してもご指導いただき、美術や教育について服部先生のご経験から今も実践されていることを発信し続けていただきたいと思います。

北海道造形教育連盟の
研究主題はこちら

http://hokuzou.kir.jp/research_subject.html





地区サークル紹介

各地区サークルの活動をホームページで紹介しています。
http://hokuzou.kir.jp/team-hokkaido.html



近年の空美の活動から

空知美術教育研究会研究部研究部長 桔梗 智恵美
(雨竜町立雨竜小学校)

空美では「まなざしを共有し思いをつなげる造形教育」を研究テーマとして活動してきていますが、2020年2月の空美会員展から、コロナ禍により集まることが難しくなりました。

例年1月7日の新春ゼミ実技講座は、2年間開催ができていません。2020年は、岩見沢中央小学校で①実技講座「あれこれ粘土」で、十種類くらいの粘土の使い分けをし、②「2019題材出店ダイジェスト」で前年のビデオで振り返りを行いました。

また、例年5月は、空美の総会が松尾ジンギスカン本館で行われ

ています。ここ3年は誌上開催で、会員、OB・OGの皆さんと会うことができていません。会員同士も、ここで会うことで「今」を確かめていたのだと実感しながら、空美だよりでみなさんが元気なことを確かめています。

継続できること、再開できることは状況に応じて行っています。

2021年2月は空美の会員展が開催できたので、OB・OGの皆さんの作品搬入・展示作業を行いました。(2022年度は美術館閉館のため中止)

今年の夏は、深川市アートホール東洲館にて、3年ぶりに「熱く

美術教育を語る会」が開催されました。

空美の原点は「作品を通して子どもを語る」こと。2日間を通して当日、集まれなかった参加者ともオンラインでつなげる場面もあり、子どもと実践を語ることで日常の実践を振り返る時間をもつことができました。

11月の初雪が降る頃には、例年であれば「子どもの作品を語る会」が行われます。「出前図工室」「題材屋台」と「子どもの作品を語る会」が状況に応じて形を変えつつ、再開できたら、と願っています。



先生方を応援するための「シン・組織」づくりを

石狩造形教育連盟事務局長 岩崎 愛彦
(千歳市立祝梅小学校)

わたしたちは、石狩管内教育研究会(石教研)図工・美術部会の活動を支援し、内外に紹介している組織です。

令和4年度は、理論研修として、鳴門教育大学の山田芳明教授に「中学校美術・小学校図画工作の新しい『評価』について」と題してご講演いただきました。

また、二次研究協議会では、リモートではありましたが、小中1本ずつの授業動画を公開し、部会員がリモートで研究協議を行いました。続いて、持ち寄ったレポートをもとに実践の交流も行うこと

ができました。下部組織である各市町村の研究会の報告もあり、一人一人の先生方の頑張りを共有することができました。

次年度は11月18日(土)に、第72回全道造形教育研究大会いしか



り大会を開催します。リモートによる開催とはなりますが、多くの皆さんとのつながりを大切にし、実り多い大会にしたいと考えております。

基調講演と授業研究協議、話題提供による協議を考えております。

道央圏での大会ですので、空知管内や後志管内の皆さんにも話題提供者として参加いただきます。皆様のご参加で、少しでも楽しく充実した会にしたいと思います。間もなくHPも再開します。ご協力をよろしくお願いいたします。

あとがき

実に、149号ぶりに全道大会の様子や2つの地区サークルの紹介ができ、ウィズ・コロナが浸透してきたと感じます。それに合わせて、広報の形も工夫し、変えていかなければならないと考えています。オンライン開催の中、たくさんの先生にご協力いただき、お言葉をいただくことができました。ありがとうございました。

<北海道造形教育連盟 広報部> 黒川 友理・中村 嘉宏・阿部 永